

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議
(第13期 第2年 第3回 第1日)
ぎじろく
議事録

1 日時 2021(令和3)年10月17日(日) 午後2時00分～4時45分

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 21人

カイ イーモンタン、グエン テイトウチャン、児玉 ノンテイシャー、許
成龍、シン バスカ バハドール、スカーフ サラ デイナ、張 亮、
ドウマヤス アリヤン、バテネフ アルチョム、ペレーラ ラヒル サンケータ、
ポール ウツザル クマル、ボソ ミゲル アンヘル、前田 喜与美、ムハマド
アイマン アリフ、ユデク マルチン、尹 智夏、李 歆歆、劉 愛玲、
レイバーマン ケビン、和田 恵麗奈、シディアエ マリ カテリン

(2) 事務局

佐藤 課長、佐藤 課長補佐、山本 担当係長、五十嵐 職員、高橋 専門
調査員

4 傍聴者 14人

5 会議次第(公開)

(1) 開会

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

ペレーラ委員長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議、2021年度第3回第1日を開催する。今日は、金さん、アディテアさん、ステータさん、チョさんが欠席だ。それでは、今日の日程と配布資料の確認について、事務局から説明をお願いします。」

(事務局佐藤課長補佐が説明)

ペレーラ委員長「次に、前回会議のまとめについて、事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明)

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。(なし)それでは、議事に入る。まずは参考人招致についてだ。事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料2に基づき説明)

ペレーラ委員長「何か質問や意見はあるか。」

前田部会長「9月の会議のあとに事務局とも打ち合わせをしたが、やはり提言に向けての基盤づくりがまだできていないので、参考人の招致は見送った方がよいと思う。」

許委員「確認だが、ひとまず今回は見送るということで、基盤ができれば招致する可能性もあるという理解でよいか。」

事務局高橋専門調査員「11月の会議で参考人を招致することを決めていたので、今回の見送りは11月の会議でのことだ。12月以降に招致するかどうかは、あらためて決めてもらえばよい。」

ペレーラ委員長「それでは、決をとる。11月に予定していた参考人の招致を見送るということに賛成の人は手を挙げてください。(全員賛成)では、このあとは部会審議だ。全体会の再開は16時20分からとする。」

【国際コミュニティ部会】

前田部会長「それでは、国際コミュニティ部会を始める。まずは事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料3に基づき説明)

前田部会長「何か質問はあるか。(なし)では、まずは2015年度提言の内容理解からしていきたい。事務局からお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料3-1に基づき説明)

前田部会長「今の説明で、あらためて内容理解が深まったのではないかと思う。何か質問や意見はあるか。」

許委員「この提言がAになっていない理由について、簡単に教えて欲しい。」

事務局高橋専門調査員「そもそもこの提言は中長期的なものとして出されているもので、すぐに実現するものでないことは第10期の代表者も理解している。みなさんも理解していると思うが、提言が出されたからといって、市がそれをそのまま実現してくれるとは限らない。もちろん、尊重はするが、市としての考えもある。Aになっていない理由としては、やはり場所や人員、人材の確保、どのような機能や役割を持たせるかなど、難しい問題がいろいろとある。」

スカーフ委員「具体的なことについて質問だが、前回の提言で課題として挙げられている外国人市民情報コーナーの定期的なメンテナンスや『生きた情報』の提供という部分は改善されていたりするのか。」

事務局高橋専門調査員「情報コーナーに関しては、多文化共生推進課ができてから、各区の状況を視察して、メンテナンスをしっかりとしてもらうように働きかけている。これは引き続き取り組んでいく予定だ。『生きた情報』の部分に関しては、そもそもラウンジの提言が出たのはこうした情報を得られる場所が欲しいという部分が大きい。ラウンジができないと、なかなか実現は難しいのではないかと思う。」

張副委員長「運営に関しては、川崎市には国際交流協会があるので、協会が担えばよいのではないか。」

事務局高橋専門調査員「横浜市のラウンジの運営は国際交流協会だけではなく、NPO法人なども担っている。前回の提言でも、国際交流協会に限定せずに、国際交流協会やNPO法人、市民活動団体等としている。」

許委員「居場所づくりは重要だが、ただ場所をつくるだけではなく、そこで何をするか、何ができるかも大事だと思う。5年経っているので、あらためて現状の課題の洗い出しも必要かもしれない。」

ンディアエ委員「新しく施設を建てることは難しいと思うので、今ある場所を有効に使うとよいと思う。何をやるかということでは、今はコロナ禍だが、コロナが落ち着いたあとのことを考えて、たとえば国際交流や日本の文化体験、SDGsなどに関する活動ができるかというのではないか。」

前田部会長「続いて、提言の内容の整理について話し合っていきたい。事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料3-3に基づき説明)

前田部会長「何か質問や意見はあるか。」

張副委員長「テーマについては、そのままよいと思う。」

李委員「私もテーマはそのままよい。ただし、項目の1つ目の複数か所に設置については、パイロットプロジェクトとしてまずはどこかに設置するというのがよいと思う。」

グエン委員「ラウンジの役割として、『市民と行政、また市民同士をつなぐ』とあるが、背景・理由では『相談機関・支援機関』にもふれられているので、それもくわえたらどうか。」

ンディアエ委員「『市民活動』も追加するとよいのではないか。」

事務局高橋専門調査員「背景・理由ではふれているが、テーマではふれていないのは、単純に長くなってしまったためだ。なるべくシンプルにして、わかりやすくするためだ。『市民活動』を追加すると、川崎市には『市民活動センター』というところがあるため、役割が重複するようになってしまう。実際にラウンジができれば市民活動の役割もはたせると思うが、市民活動の場所が欲しいという意見として提言を出してしまうと、ラウンジであることの意味が薄れてしまう。」

ンディアエ委員「よくわかった。」

前田部会長「そろそろ時間も押してきているので、決をとって確認していきたい。」

提言の柱としては、『外国人支援』『多文化共生の推進』『中間支援』という3つでよいか。賛成の人は手を挙げてください。(賛成多数(7人))
挙手しなかった人たちは、何か理由や意見はあるか。」

許委員「個人的には『外国人支援』は削ってもよいかと思う。残すとしても多文化共生のあとがよいかと思っている。」

李委員「まだ頭の整理がついていないので手を挙げなかった。」

グエン委員「私もとくに反対ではないのだが、前回と同じでよいのかという部分で少し違和感があった。」

前田部会長「個人的に青葉区のラウンジに行ってみたのだが、そこでも困って相談に来る人は多いとのことだったので、外国人支援の部分は欠かせないと思う。今はあくまでも柱として残して検討を進めていくということなので、削ったり、順番を入れ替えたり、文章を工夫したりといったことはこれからでも可能だ。」

事務局高橋専門調査員「手を挙げなかった人もいるが、大きな方向性としてはこれだけだ。たたき台の作成を進めるという理解でよいか。（異議なし）」

張副委員長「項目については審議して決をとらなくてよいのか。もうたたき台の作成に進むのか。」

前田部会長「できれば審議したかったが、もう時間がない。何も決定していないので、ひとまずはたたき台をつくってもらって、それをもとに次回検討したい。」

張副委員長「個人的には、複数か所設置は難しいと思うので、流動のラウンジというのを提案したい。月ごとに区を変えて会議室を借りたり、青空ラウンジとして多摩川の近くで開催したりするのもよいのではないか。」

前田部会長「新しいアイデアについては、今日はもう時間がないので次回以降に検討することにしたい。」

尹委員「質問だが、項目の2つ目で国際交流協会が『相互連携やネットワークづくりにおいて国際交流協会が主導的な役割を担う』とあるが、これは当たり前ではないのか。」

事務局高橋専門調査員「そのとおりだが、明確にしておくために文章にしている。」

尹委員「理解した。」

前田部会長「それでは、時間も過ぎていたので今日の部会はこれで終わりにする。」

【安心生活部会】

児玉部会長「それでは、部会を始める。まずは、事務局から説明をお願いします。」

（事務局五十嵐職員が資料4に基づき説明）

児玉部会長「何か質問はあるか。（なし）それでは、まずは多言語ツールについて審議する。事務局から説明をお願いします。」

（事務局五十嵐職員が資料4-1に基づき説明）

児玉部会長「私は実際に自分も大変な経験をしたので保育園を選んだ。区役所の窓口でもいつも外国人の人がいて、説明する職員も大変そうだった。」

ベレーラ委員長「私は保育園とマイナンバーの2つができたかと思っている。今回、1つだけということだったので悩んでマイナンバーにした。マイナンバーが記入する項目自体は簡単なものだが、日本語がわからない人からするとやはり難しいと思う。2つできるとよい。」

事務局五十嵐職員「提言は、ただツールをつくるということではなく、なぜツールが必要なのかといったテーマごとの理由も必要だ。積極的なのは嬉しいが、複数

の提言をまとめるというのはかなり大変だ。」

劉委員「私も保育園もすごくやりたかったが、1つだけということだったので療育センターを選んだ。発達障害はすぐにわかるものではなく、乳幼児健診や幼稚園、保育園に入れたときに指摘されることが多い。6歳までに発見して治療することがすごく大事だと言われている。発達障害の人は多くないが、外国人となるとさらに少なくて一握りしかいないと思う。ただ、実際に利用している人もいるようなので、少ないけれどニーズはある。」

児玉部会長「ほかに何か意見はあるか。(なし)では、多数決で決めたい。まず、保育園に賛成の人は手を挙げてください。(8人)次に、介護保険に賛成の人は手を挙げてください。(0人)次に、療育センターに賛成の人は手を挙げてください。(3人)最後に、マイナンバーに賛成の人は手を挙げてください。(0人)それでは、多言語ツールの作成については、保育園に決まった。」

レイバーマン委員「さっきペレーラさんが言っていたが、マイナンバーも多くの人が関わるので、もし保育園をやった余裕があればマイナンバーも追加してよいのではないか。」

ユデク委員「賛成だ。」

事務局五十嵐職員「まずは保育園のツールを作成して、余裕があればマイナンバーも検討するというのでよいか。(異議なし)」

児玉部会長「それでは、まずは決定した保育園について提言をまとめたい。提言にする理由についてはどうか。ただ、利用者が多いというだけでは理由としては弱い。」

ボソ委員「生活や仕事のために子どもを預けたいということは、外国人だけではなく、日本人も同じだと思う。そうした時に、書類が日本語だとやはり読めない、わからないということがある。」

レイバーマン委員「子どもは私たちの未来なので、保育園は私たちの将来につながるものだと思う。若い家族を歓迎できることは、川崎市の成長にもつながると思う。」

ポール委員「確認だが、保育の制度に関する説明はつくらなくてよいか。」

事務局五十嵐職員「保育制度の概要については、第11期の提言でツールを作成している。」

ペレーラ委員「保育園にする理由としては、働くためには子どもを預けなければい

けないので、安心して子どもを預けられる保育園を利用できるとよい。ただ、私も実際に申請書を見て全然理解できなかった。妻は日本人だが、日本人でも困ったり、迷ったりする文面も多いようなので、外国人にはやはり大変だと思う。」

ムハマド委員「私は、最初はマイナンバーがよいと思っていたが、マイナンバーは多くの人利用しているので、わからないことがあっても人に聞ける。保育園は、日本人でも難しい部分があるようだし、誰でも答えられるわけではないようなので、保育園の方が役立つと思った。」

ドウマヤス委員「女性という立場からすると、女性が活躍できる社会になるためには保育園は重要だと思う。」

カイ委員「私も区役所に行って書類をもらったが、10数年日本に住んでいてもわからないところがたくさんあった。日本に来たばかりの方だともっと大変だと思う。」

こだまぶかいちょう「いろいろと意見も出たので、このくらいにして次のテーマに移りたい。」

ぼそい委員「次のテーマに行く前に、言語の担当を確認しておいた方がよいのではないか。」

こだまぶかいちょう「では、多言語ツールの作成に協力できる人を確認したい。

(確認)では、続いてオリエンテーションの再提言について審議する。

事務局から説明をお願いします。」

(事務局五十嵐職員が資料4-1に基づき説明)

こだまぶかいちょう「私は、6月のオリエンテーションに参加した。内容的にはとてもよかったが、参加者が少なかった。どうやって外国人の人たちに知らせるかが大事なのではないかと思う。」

ドウマヤス委員「私も参加して人数が少ないと感じたが、行く必要性がわからない人が多いのだと思った。広報をするときに、たとえば弁護士に相談できるとか、マイナンバーの申請ができるとか、役所での手続きができるとか、何かプラスアルファの魅力があるとよいのではないか。」

ペレーラ委員「広報に関しては、事務局が発信している情報を個人のSNSで拡散するなど、私たちにもできることがあると思う。そのうえで、町内会をうまく活用できるとよいのではないか。マンションなどの掲示板に貼るのもよいかもしれない。町内会を活用するというのは、外国人のためだけではなく、町内会

の人にとっても市の取組を知ってもらいよい機会になるのではないかとと思う。
プラスアルファの魅力という意味では、役所での手続きができなくても通訳が
いたのはとてもよかったと思う。」

劉委員「相談会などボランティアで活動している行政書士もいるので、ビザの関係
などで協力してくれる行政書士もいるかもしれない。」

児玉部会長「いろいろと意見は出ているが、内容の変更は必要か。」

ユデク委員「子ども手当など、川崎市でもらえる支援金などを追加するとよいのでは
ないか。」

バテネフ委員「オリエンテーションの内容は把握していないのだが、配偶者控除とか、
医療控除とかの説明がるとよいかもしれない。」

事務局五十嵐職員「オリエンテーションでは、全員に関係するような本当に基本的な
ことだけ説明している。」

バテネフ委員「それならば、税金の控除は複雑すぎると思う。」

ベレーラ委員長「簡単でよいので、町内会の紹介があってもよいかもしれない。」

バテネフ委員「美術館や博物館、公園など川崎市の魅力についても伝えられるとよい
のではないか。」

ムハマド委員「オリエンテーションに来ると、日本人の友だちができたりするとよい
のではないか。」

ドウマヤス委員「先ほど、支援金の話が出たが、今だとじもと応援券のクーポンな
どの紹介があるとよいのではないか。あとは、ボランティア活動ができる団体
の紹介などもあるとよいかもしれない。」

ボソ委員「再提言するのに内容を追加する必要はないと思う。何回か
オリエンテーションをやる中で、ニーズがあるとわかったものを追加していけ
ばよい。」

レイバーマン委員「内容は非常に充実していたので、来た人は満足して帰れると思う。
せっかく通訳の人がいたので、質問がなければ言語ごとにわかれて話ができ
るとよかったかもしれない。」

カイ委員「内容の改善よりもまずは参加者が増えるように、魅力をしっかりと伝えて
いく必要があるのではないかとと思う。」

児玉部会長「そろそろ時間なので、今日の審議は終わりにしたい。次回のための資料
のリクエストはあるか。（なし）それでは、これで部会を終わりにす
る。」

【全体会】

ペレーラ 委員長「それでは、全体会を再開する。まずは部会報告だ。国際コミュニティ部会から報告をお願いします。」

前田 部会長「今日は多文化共生ラウンジの再提言について、検討した。まずは、2015年度の提言について、あらためて理解を深めた。提言のテーマと項目に関しては、大きな方向性としてはそのままということになった。11月の会議までに事務局にたたき台をつくってもらい、次回の会議では背景と理由についても話し合っていく予定だ。」

ペレーラ 委員長「何か質問はあるか。（なし）続いて、安心生活部会の報告をお願いします。」

児玉 部会長「今日は多言語ツールの作成とオリエンテーションの再提言について話合った。多言語ツールの作成については、保育園に関するツールをつくることに決まった。ツールの作成は誰でも参加できるので、国際コミュニティ部会のひとでもぜひ協力して欲しい。オリエンテーションについては、詳しい内容はまだ決まっていない。参加者を増やすための工夫について、いろいろと意見が出た。11月21日にもオリエンテーションがあるそうなので、ぜひみなさん参加をお願いします。」

ペレーラ 委員長「何か質問はあるか」

前田 部会長「多言語ツールの作成についてだが、申請書の記入をサポートするようなものをつくるのか。それとも、説明を補足するようなものをつくるのか。」

児玉 部会長「記入をサポートするための記入ガイドを作成する予定だ。」

ペレーラ 委員長「ほかにあるか。（なし）続いて、実行委員会報告だ。ニューズレター実行委員会の報告をお願いします。」

スカーフ 委員「今回は、3月に発行予定のニューズレターの編集後記の担当を決めた。私が担当することになった。」

ペレーラ 委員長「今日の議事は以上だ。事務局から事務連絡をお願いします。」

【事務連絡】

- ・居住支援のアンケートについて
- ・生活オリエンテーションの開催について
- ・SDGsのポスター撮影について

ペレーラ委員長「それでは、これで今日の日程は終了だ。次回は11月14日、
日曜日、川崎市国際交流センターで開催する。これで2021年度第3回第1
日の会議を終わりにする。」